

疾患に特化した リハビリテーション



パーキンソン病の知識や技術を深めた専門の療法士が、
良質なリハビリテーションをご提供します。
福祉用具も対応し、日常生活継続のためにご支援します。

24時間体制で安心の訪問看護

服薬管理や細かな症状の変化、
副作用にも適切に対応することが可能です。

重度に合わせてチームでサポート

症状が進んだ場合も、介護や福祉用具の専門スタッフが加わり、
安心・安全な生活を継続いただけます。

パーキンソン病の診断を受けてから晩期まで

立川 哲也
たつかわ てつや

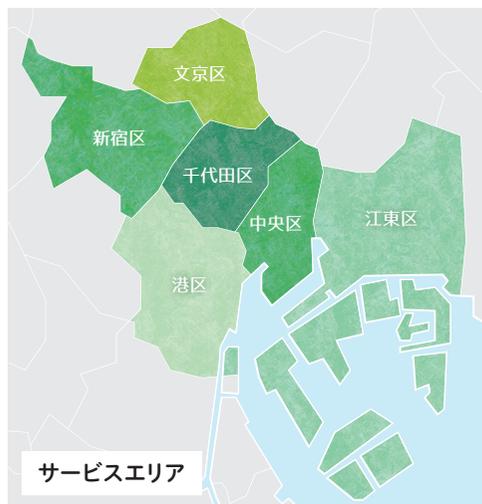
理学療法士、PD療養指導士、生命科学博士
メディカル事業部
パーキンソン病専門リハビリチーム

病の進行具合と未来像を予測しながら、リハビリの具体的なアドバイスをいたします。
パーキンソン病の特徴にあわせた「自立度の高い方向け」と「重度の方向け」の2つの方向けからのリハビリプログラムを設定しています。
発症初期から晩期まで、安心して生活を送れるようしっかりとサポートいたします。



サービス開始までの流れ

- 1 お問い合わせ (電話・フォーム)
- 2 電話にてヒアリング・相談
- 3 主治医へ指示書の依頼 (ご本人・ご家族から)
- 4 契約 (回数と曜日の設定)
- 5 サービス開始



サービスエリア

■千代田区、中央区、港区、江東区、文京区、新宿区の全域

お問い合わせ

メディカル事業部

◆ターミナルケアチーム

◆パーキンソン病専門 訪問リハビリチーム

☎ 0800-111-5655

FAX 03-6837-7059

担当：鈴木 直美

株式会社 グッドライフケア東京

〒104-0033 東京都中央区新川1-23-5 SHINKAWA EAST 3階

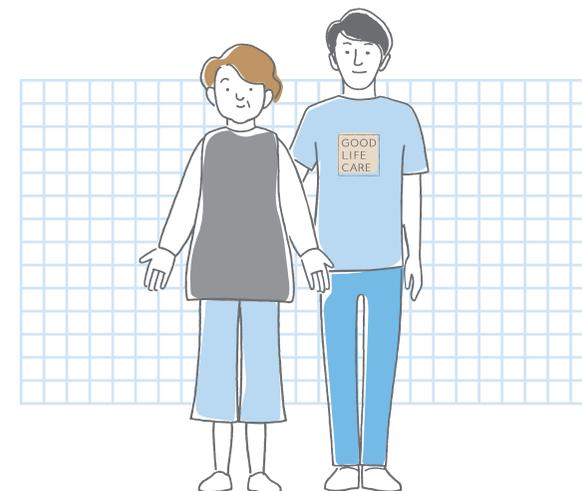
TEL: 03-3537-0790 FAX: 03-3537-0791 <https://goodlifecare.co.jp>

GOOD
LIFE
CARE

グッドライフケア メディカル事業部

パーキンソン病専門
訪問リハビリチーム

パーキンソン病に特化した 在宅リハビリプログラム



MEDICAL TEAM

Rehabilitation

パーキンソン病(PD)の特徴とリハビリ

PDは、中脳の黒質神経細胞が変性・消失し、脳内のドーパミンが減少することで様々な症状が生じます。

片側から両側の障害に進むにつれ歩行時の腕振りの低下や足の引きずり、すくみ足といった症状が強くなります。更に症状が進行すると首下がりや前かがみなど姿勢異常などがみられ、様々な動作障害が生じます。

●リハビリの目的
症状の軽減や進行を遅らせるため、病状の進行に合わせて行います。

●PDの運動障害の4大徴候

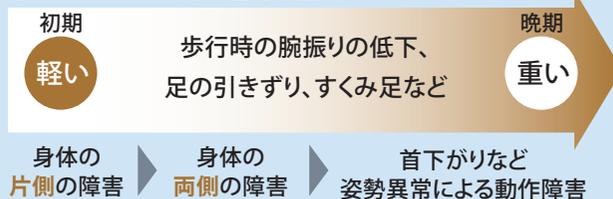
手足のふるえ(安静時振戦)

動きが緩慢になる(寡動・無動)

筋肉のこわばり(筋強剛)

バランスを保てず転倒する(姿勢反射障害)

●パーキンソン病の進行と症状



パーキンソン病の方の在宅生活を多職種が連携して支えます。



リハビリ



パーキンソン病に特化したリハビリに加え、PT・OT・STによる生活を支えるリハビリをいたします。食事や着替えなど自立した日常生活継続のための運動能力の維持、発声や嚥下の練習や口腔訓練も行います。

訪問看護



主治医と連携し、症状に合った服薬管理で症状緩和や進行を抑制。ご本人やご家族の心のケアも行います。

福祉用具



生活しやすい住環境の提案や、より安全な在宅生活のための各福祉用具の手配を行います。

訪問介護



転倒防止の見守りや、食事・入浴介助などの日常生活の介助を行います。

ケアマネ



状態把握とご本人やご家族への情報整理、関係機関との連絡を行います。



在宅リハビリプログラム

専門リハビリのPOINT

POINT 1 ニューロリハビリテーション

PDは運動障害があると同時に、自身の動きを正しく認識できなくなる感覚障害もあると考えられており、意識的に「大きな」運動を行うことや視覚や聴覚、体性感覚刺激などで改善することが知られています。また、長期的な運動が脳の刺激を促し神経細胞の機能回復を助長することが報告されています。

POINT 2 身体の傾きやバランス能力を重視

症状が進行すると、体幹が左右どちらかに傾きバランス能力が低下します。このような徴候をいち早く発見し、弱い筋肉を強化することで姿勢保持・バランス能力を高めていきます。

POINT 3 リズム体操・マルチタスク運動

音楽に合わせて行うリズム体操やマルチタスク(複数の動作を取り入れた)運動でバランス能力を高め転倒予防に努めます。

POINT 4 足指の力、足首の力を保持

ジストニアやジスキネジアの症状が顕著になると、足指の力や足首の固定力が低下してバランスを崩しやすくなります。足部の機能に注目してリハビリを進めています。

【パーキンソン病のリハビリ目的に即した運動例】

リハビリの専門スタッフがサポートしながら、ご利用者の病状レベルに合わせて行います。



身体をひねる運動

両腕を自然に伸ばし、片方の足を後ろへ引いた状態で上半身をゆっくりと左右に回転させる。目線は動かした手の方へ向ける。

座り姿勢で安全に身体を大きく動かす運動

座ってボールを持った状態で、上から下へ。下から上へ。身体の左側、右側それぞれで行う。



福祉用具専門相談員